

第12回北海道病院学会
平成24年6月30日

精神科デイケアにおける 退院前通所の実践と考察

医療法人社団 五稜会病院デイケアセンター
○鈴木ゆかり・山田寿代・鍛冶志保里
八木こずえ・中島公博

はじめに

入院医療中心→地域生活中心への転換
当院でも退院促進への動きが活発

しかし・・・患者の退院不安は大きい

入院中にデイケアの活動を体験する退院前通所を实践

研究方法

実施状況の振り返りと利用者へのアンケート調査
意義や役割を考察し、今後の課題を見出す

当院およびデイケアの概要

診療科目 | 精神科・神経科・心療内科
病棟(193床) | 思春期・ストレスケア、急性期、療養A・B
デイケア | 大規模デイケア(定員100名)

デイケア「コラボ」概要

年齢・性別 10～80代までの男女混合
疾病構成 統合失調症 約80% 他、気分障害圏
登録者数 162人 / 1日平均利用者数 54人

地域生活におけるデイケアの機能

退院後の孤独感
活動性の低下

再燃、再発予防
生活技能の向上
活動性の低下防止
など

リハビリテーションが不可欠

退院前通所の目的

不安や緊張が高く
慣れるまでに時間を要する

デイケアへの適応を円滑にする

利用者推移

年	退院前通所者	新規利用者
2009年	12	32
2010年	16	47
2011年	33	78

退院前通所者
3年間 2倍増加

利用者アンケートの結果

- ◆対象 2010～2011年の利用者
- ◆総数 27名 回収率100%
- ◆年齢 20代～60代 平均39.5歳
- ◆疾患 統合失調症80%
- ◆体験内容 プログラム活動参加

入院期間

入院期間	割合
3か月未満	44%
1年未満	32%
1～3年	12%
4年以上	12%

退院前通所に対する主な感想

- ・スタッフの対応に安心できた
- ・参加してみても楽しかった
- ・通所イメージができて自信に繋がった
- ・病棟Nsの付き添いに安心できた

少数意見

- ・見学後に不安が増し調子を崩した
- ・プログラム開始と検温が重なり困った

事例紹介

- ・T氏 49歳 女性
- ・診断名 うつ病
- ・入院期間 約1年
- ・脆弱性が高く、コミュニケーションが苦手
- ・寂しがりやで不安感も強い
- ・両親とも他界、弟のみ
- ・退院先→当院グループホーム

デイケア見学

DCスタッフの説明には表情が硬く反応が乏しい

プログラム体験

病棟Nsも一緒に体験！
デイケアスタッフの関わる割合を少しずつ増やした
⇒表情も穏やかに変化

地域生活を1年以上維持

病棟スタッフ → 支援のバトンタッチ → デイケアスタッフ

デイケアスタッフの認識

メリット

- 通所開始時には関係性ができている
- 回復の経過がわかり、変化に気づきやすい
- 体験で不調になっても、入院中のため調整が可能

困った点

- 疲労感の把握に戸惑うこともある
- 既存メンバーとの兼ね合いや、複数の受け入れでスタッフに混乱が生じることがある

要望

- 必要に応じて病棟Nsとの連携を増やしたい



病棟スタッフの認識

メリット

- 退院後の生活がイメージしやすい
- 入院していた利用者と接することで退院意欲が湧く

要望

- 患者に地域生活の魅力を感じさせて欲しい
- 患者が楽しく過ごせる場であって欲しい

困った点

- デイケアのことがよくわからず説明が困難
- 担当者が明らかでないため連携が取りにくい



考察

- ◆ 入院中からのデイケア利用は、退院による支援の空白期間をなくし、継続支援の実感を持つことに繋る
- ◆ 個別性を重視した上での関係構築は、退院後の安定通所に効果的に働く
- ◆ 情報共有の方法など連携機能の整備が必要

おわりに

- 退院前通所は利用者の不安を軽減し、退院後の安定通所に繋がっている
- 今後の課題として、部署間での具体的な連携方法の構築に取り組みたい